

幼児期の「きずな教育」の取り組み

～絵本「なかなおり」は保育園に活用できるか～

仮説『年長児童に絵本「なかなおり」はかつようできる』

長深田 悟

正会員 NPO自立

(〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾1-8-16 A302)

E-mail: pipi1215@outlook.jp

パブリック・リレーションズ理論1) きずな教育がはたしてどの年齢から活用できるかを検証したい。

おそらく幼児期、保育園・幼稚園からできないか、年中年長を検証してみたい。

。

1.はじめに

保育園園長を10年経験した私にとって、年長クラスに絵本「なかなおり」を読み聞かせることは理解できた。

しかし絵本「なかなおり」2)の中には、きずな教育の理論が入っている。この理論を果たして年長の子供たちが捉えられるかが疑問であった。

そこで、横浜市内の10保育園の園長の力を借りて年長クラスに絵本「なかなおり」を活用し、年長クラスに活用できるかを検証することとした。また年中クラスにも年長クラスと同じく検証することとした。

10保育園の内、A保育園を年長クラス、B保育園に年中クラスに依頼し検証してもらうことにした。時期としてはAクラスがもうすぐ卒園となる1月に検証した。

10園の園長さんにはこの検証の経過を説明し、絵本「なかなおり」の中の「きずな教育」3つの理論についても説明した。

2. 絵本「なかなおり」の中の「きずな教育」の3理論

「きずな絵本シリーズ」は、グローバル社会3)のさまざまなひと達とコミュニケーションすることで、絆を作り、目標達成するパブリック・リレーションズというスキルを子供たちにわかりやすく学べるように作られました。

きずな教育として3つのキーワードがあります。

その3つとは、

② 倫理観 (おもいやり)

② 双方向的なコミュニケーション (お互い話し合う)

③ 自己修正 (間違っていたら直す)

絵本「なかなおり」には、この3つのキーワードが込められている。

新しい世界を作る子供たちです。この絵本が多くの子供たちに読まれ、次の時代を生きるために、心豊かに育ってほしいと願っているのです。

3. 1 検証授業1

① 実施園 A保育園 年長クラス

② 実施日 2023年2月10日

④ 実際

- ・年長担当が絵本「なかなおり」を読み聞かせをする
- ・園児たちは熱心に聞いていた
- ・先生から園児に、「なかなおり」を聞いて、思ったことはありませんでしたか。何でも発表してください、と発言。
- ・子供A：『くまさんはすぐに「ごめんね」とあやまれば良かったです。すぐにあやまればけんかなくて良かったと思います』
- ・先生：「A君はすぐにあやまることが大切だ」という意見でした。A君素晴らしいね」
- ・子どもB：「でもビーバー君も早く家が欲しいと思うから、だまって帰って帰ったと思います」
- ・先生：「B君の意見もわかりますよ、他にありませんか」
- ・子どもC：「木が欲しいと、ビーバー君にいった方がいいと思います。だってビーバー君のものだから」

- ・先生：「そうか、木はビーバー君が切ったものだね。困ったね。くま君は一人で家を作り始めました。でもなかなか作れません。泣いてしまいました。すると誰かが来ました。だれかな？」
- ・みんな：「リスばあさんです」
- ・先生：「何かくま君に教えてくれましたね」
- ・みんな：『「なかなおり」の歌です』
- ・子どもD：「あの歌大好き、歌いたいです」
- ・先生：「みんなで一緒にうたいましょうか」
- ・みんな：「歌いたい、歌いたい」とみんなで歌う
- ・子どもE：「楽しい歌だね、またあしたも歌いたいです」
- ・先生：「あしたもうたいましょう」
- ・子どもF：「リスばあさんの歌は楽しい歌、魔法の歌みたいだね」
- ・楽しい、楽しい歌で盛り上がりました
- ・先生：「ビーバー君の家づくりはできあがったかなあ」
- ・子どもG：「くま君はビーバー君のことを心配して木を持って行ったよ」「ビーバー君にごめんなさいとあやまって仲良しになったよ」
- ・先生：「くま君とビーバー君は仲良しになって良かったね」
- ・子どもH：「ケンカすると悲しくなるよ、ケンカしない方がいいよ」
- ・先生：「他のみんなもケンカしたら悲しいですか」
- ・みんな：「悲しい！悲しいです」
- ・先生：「そうなんだ！ケンカは悲しくなるんだね」
- ・子どもI：「先生、リスおばさんがなかなおりの歌をおしえてくれたから、仲良しになれたんだね。お礼を、くま君は言えたかなあ」
- ・先生：「お礼を言いましょうね。何と言ったかなあ」
- ・みんな：「ありがとう」
- ・先生：「すばらしい言葉だね。リスおばさんきっと喜んでるよ」「今日は絵本“なかなおり”でお勉強しました。みんなよく意見を発表してくれましたね。みんなの意見、最高、最高100点満点です。“なかなおり”の歌をまた明日歌いましようね」

(担当考察)

検証授業は終了しました。子どもたちは見事に、価値観を子どもなりに感じていました。子どもたちの価値観を教え込むのではなく、子どもたちが自由に言え

クラスづくりが大切だと思いました。子どもたちは自由に発表してくれました。

3. 2 検証授業2

(実施園) 横浜市内B保育園

(実際)

- ・年中担任の先生が絵本「なかなおり」の読み聞かせをする。
- ・園児は熱心に聞いている・
- ・先生：「絵本“なかなおり”を聞いて、思ったことを何でも発表してください」
- ・子どもA：「くま君とビーバー君がケンカだから悲しいでした」
- ・先生：「ケンカしたら悲しいんだね。A君ケンカは悲しいんだね。ほかにありませんか」
- ・子どもB：「“なかなおり”の歌がおもしろいでした。先生歌ってください」
- ・先生「なかなおり」の歌をうたう。みんなは大喜び。
- ・先生：「この歌毎日みんなで歌いましょうね。ほかに意見はありませんか」
- ・子どもC：「みんなで家を作って楽しいなと思いました」
- ・先生：「新しいお家をみんなで一緒に作ったんだね。みんな楽しかったんだね」
- ・子どもD：「ビーバー君のお家ができて、みんなで住んでうれしいです」
- ・子どもE：「ビーバー君のお家かっこいいです」
- ・子どもF：「お家にすべり台があるからいいなあ、お空まで届きそうです」
- ・先生：「ビーバー君のお家すべり台があつてすごいね。みんなで一緒に住みたいね」
- ・みんな：「みんなですみたいなあ、先生も一緒だよ」
- ・子どもH：「くま君がなんで泣いてるのかなあ」
- ・先生：「くま君どうして泣いているのかな、だれか教えてちょうだい」
- ・みんな沈黙
- ・先生：「今日は絵本“なかなおり”のお話を勉強しましたね。みんなよく発表してくれましたね。すばらしいでしたよ。みんなからでた「なかなおり」の歌を明日から歌いましようね」

(担当考察)

検証授業が終了しました。やはり、年中にとってはなかなか難しいと判断しました。ただし、「なかなおり」の歌は受け入れられ今後も歌い続ける事は年中の子どもたちにとって意義あると思う。

4. 仮説検証考察

- (ア) 年長には絵本「なかなおり」は大いに活用できることが実証実験により証明できました。また、年長は読み聞かせでしっかりと内容を理解することもできていることが分かった。
- (イ) 年中の子どもは、読み聞かせが不十分で内容理解が難しいようである。ゆえに、授業でするには難しいと感じる。「なかなおり」の歌を歌ったりすることは年長さん段階で価値を捉えるのに非常に効果的だと感じる。
- (ウ) また、年中から歌を歌いながら踊りを入れるのも子どもたちが大好きであり、歌・踊りは年長時の「なかなおり」の授業が非常に効果的だと感じる。
- (エ) 連携園10園の園長から、やはり「なかなおり」は年長さんから取り組むべき、ただし読み聞かせや「なかなおり」の歌はもっと早く取り組むべきと思う。

5. 結論

仮説「年長児童に絵本“なかなおり”は活用できる」は検証授業により実証された。

なお次年度研究内容は、小学校での取り組みを考えており、具体的には

- ① 絵本「なかなおり」の実践クラスと非実践クラスにおける子供の実態比較
 - ② 小学校の何年生まで活用できるかの検証
- である。

参考文献

- 1) 井之上喬. パブリック・リレーションズ第2版 戦略広報を実現するリレーションシップマネジメント. 日本評論社. 2015
- 2) 作力ピリナ 監修井之上喬 長深田悟. なかなおり. 朝日学生新聞社. 2023
- 3) 井之上喬. 京都大学経営管理大学院 ABL座学講義 第2回資料